

# 【成長戦略課題】高冷地における葉物野菜の冬期安定生産技術の確立(R8~10)

総合農業技術センター 高冷地野菜・花き振興センター 野菜作物科、環境部 環境保全・鳥獣害対策科

## 背景・目的

**高冷地(標高700m以上)で冬期に葉物野菜を!**

- 山梨県の高冷地では冬期に気温が低く、風も強いため、ハクサイやダイコンの据え置き株の利用以外、野菜の露地栽培は限られる。
- 高冷地では、有機栽培の新規就農者が増えているが、冬期の収入確保が課題となっている。
- 昨今、温暖化の影響により秋冬期の気温上昇が続いており、また種苗メーカーの品種開発も進んでいることから、高冷地の露地においても冬期の安定した野菜生産の可能性が出てきた。

### 【本研究の目的】

◎高冷地の露地栽培で冬期(1~2月)にコマツナ、コカブなど葉物野菜を安定生産するため、有望品種と播種期を組み合わせたトンネル栽培技術を確立する。



トンネル栽培(R6.12.高冷地野菜・花き振興センター)

平均気温(°C)	12月	1月	2月
2010-2014	1.7	-1.0	0.4
2020-2024	2.9	0.8	1.8
差	+1.2	+1.8	+1.4

気象庁：山梨県大泉地点の過去データ参照

## 研究内容

1年目

2年目

3年目

### 1. コマツナ、コカブ等の冬期作型の検討(R8~10)

- ・試験場所
  - ①北杜市明野町 標高747m
  - ②北杜市高根町 標高955m
- ・栽培技術 トンネル栽培
- ・検討項目
  - ①有望品種の選定(コマツナ,コカブ)
  - ②播種時期の検討
- ・試験内容
  - 供試品種(耐寒性、低温伸長性)
  - 播種期(11~12月に毎週播種)
- ・調査項目 調製重、凍害(耐凍性)、可販株率、収穫期など

### 2. トンネル被覆技術の検討(R9~10)

- ・供試品目 コマツナ、コカブ
- ・検討項目
  - ①被覆資材検討
  - ②強風による風害回避のための設置方法の検討

### 3. 冬期栽培による品質、低温耐性の検討(R9~10)

- ①凍害回避対策検討
- ②低温栽培による糖、ビタミン等内容成分比較

## 期待される効果

- 冬期の出荷端境期に高冷地で野菜の生産が可能となり、当時期に収入を確保することができる。
- 安価で簡易な資材で栽培が可能で、新規参入が容易であり、高冷地における生産農家の増加が期待できる。
- 需要の安定した葉物野菜の安定供給につながる。

### ※県内直売所の売り上げ(R5)

総額72億円(農家15千人)  
うち野菜類26億円  
うち中間高冷地の野菜類15億円(推計)



2025.1.9 コマツナ(トンネル)



凍害(-5~-7°C)